



大 輪

発行：島根県社会福祉協議会内
島根県知的障害者施設保護者会連合
松江市東津田町1741-3
いきいきプラザ島根 5 F
TEL 0852-32-5976 FAX 0852-32-5982

VOL. 37

平成 28 年 8 月発行

障害者支援施設での事件への対応について (声明)

島根県知的障害者施設保護者会連合会 会長 山根 良雄

さる6月の理事会におきまして、前岡崎会長のご勇退に伴い、不肖私が重責を拝命することになりました。もとより浅学・非才の身ではありますが、職責を全うすべく尽力してまいり所存でございます。何卒皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、さる7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者支援施設におきまして、19名の尊い命が奪われ、20名以上が負傷されるという、まさに前例のない惨烈な事件が発生いたしました。

犠牲となられました知的障がいのある当事者、そのご家族に哀悼の意を表するとともに、負傷された皆様の一日も早いご回復を祈念するものであります。

この事件に対しまして、全国の各障害者団体等から遺憾の声明文などが報じられ、私どもの全国組織である、「全国知的障害者施設家族会連合会」(以下全施連)も理事長名にて別掲の声明文を公表するとともに、8月5日には「緊急代表者会議」が神戸市にて開催されました。

この緊急代表者会議では、事件の経過と概要について認識を共有するとともに、この忌まわしい事件の問題点と今後の対応策について論議し、全施連としての見解と方針を確認するとともに、全国の仲間、障害者団体との連携により、再びこのような残酷・卑劣な事件が起きない社会をめざして諸活動を展開していくことの申し合わせを行ったところであります。

(代表者会議での主たる論点)

- *事件にはどのような背景があったのか考えてみる必要がある。
- *施設の安全対策についてしっかりとした対応が望まれる。
- *事件の被災者の氏名公表問題は、差別・人権問題を踏まえ、公表する方向で論議を進めていくべきである。
- *施設出入口、ユニットごとの施錠等は安全対策等との関連を踏まえ慎重な対応が望まれる。

以上の論点議論を踏まえ、全施連としての当面の対応策として次の方針を確認し、具体的な取り組みをしていくことが確認されました。

- ① 今回の代表者会議をふまえて、新たな考え方、対応を検討し、全施連ニュースに掲載する。
- ② 再発防止策、夜間体制の見直し、職員待遇の改善を訴えて活動していく。
- ③ 利用者を真に安全に守れる体制づくりを訴えて活動していく。
- ④ 全施連として会員である「やまゆり園家族会」に弔慰金をお贈りする。

このような全施連の方針を踏まえて、当島根県知的障害者施設保護者会連合会といたしましては、今回の事件の背景と事実関係を直視し、保護者会が拱手傍観ではなく、それぞれの施設における課題や問題点を早急に検証・整理していく必要があると思います。

そして今後このような事件が起きないよう、仕組みや対応策について、施設や関係諸団体との連携をとりながら具体的な取り組みを行い、安心・安全な施設、地域社会を目指していくことが喫緊の課題と考えております。

当面、早急に運営委員会および地区別懇談会を開催し、鋭意具体的な取り組み策等を、県当局への申し入れを含め、論議・検討していくこととします。

何卒、会員の皆様方のご支援とご協力を一層賜りますようお願い申し上げます。

障害者支援施設での惨烈な事件について（声明）

一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会 理事長 由岐 透

7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者支援施設で起こった惨烈な事件は日本全国に大きな衝撃が走りました。とりわけ障がいのある当事者や家族、関係者の受けた衝撃、深い悲しみと非道な行為に対する憤怒の念が込みあげてきます。

犠牲となった知的障がいのある当事者、そのご家族に哀悼の意を表するとともに、重軽傷を負った方たちの一日も早い回復を祈ります。

容疑者が衆議院議長公邸宛に書いた手紙には「障害者は人間としてではなく、動物として生活を過しております。」「私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。」と書いています。この文章は知的障がい者を人間と認めず、社会的生存権を否定し、家族に安楽死の同意を求めています。

私たちはどんなに重い障がいをもっていても、この社会に人間らしく生きる権利をもっていると考えます。我が国は憲法もそれを保障しているのです。また、障がい者権利条約に2007年に賛成署名をし、2014年2月批准しています。障がい者の安楽死を認めよとは言語道断の身勝手なドイツのヒットラーにも似た考えです。

重度心身障がい児（者）の父と言われた糸賀一雄先生は「この子らに光を」ではなく、「この子らを光に」と言われました。それはこの子らは存在によって人間性の在り方や社会の歪みを写し出し、友愛に満ちた社会の実現を声なき声で願っているからでしょう。世界中どこの国にも貧富の差や身分の上下に関わりなく、障がい者は生まれ存在しています。アメリカの有名な障がい者であったヘレン・ケラーは「障害をもつことは不自由であっても不幸ではない。不幸にしているのは社会の差別だ」との名言を残しています。

この事件は、精神異常者よる殺人事件であるかもしれませんが、人の命の大事さを実感できる障害者支援施設で働いていたにも関わらず恐るべき社会観が醸成された計画的大量殺人の実行であることを直視し、政府、政治家・障がい者とその家族や一般国民にも警鐘をならしていると考えます。

私たち知的障がい者の家族は、わが子らに支援をしていただく方々のご協力を得ながら必死にその命を守っています。

最後に今回の容疑者のような危険思想が社会に生まれ、蔓延してはならないことを願う次第です。

平成28年度鳥根県知的障害者施設保護者会連合会研修会を開催しました

改正障害者総合支援法が可決、成立し、その内容がどのようなものなのかを学習するため、平成28年7月16日（土）講師に日本知的障害者福祉協会政策委員長河原雄一氏をお招きし、鳥根県知的障害者施設保護者会連合会研修会を開催しました。



【テーマ】

改正障害者総合支援法案とは？
～障害者の望む地域生活の支援を中心に～

【講師】

日本知的障害者福祉協会 政策委員長 河原 雄一氏

【参加者数】

70名

【参加者感想】

参加者A

- 基本的な知識があれば理解しやすい。
- 福祉協会・家族会が一緒になって取り組んでいく必要性を感じる。

参加者B

- 障害者本人の意思を尊重してくれる方向性は大きく言われるが、本人決定が困難な場合、たとえば、「こうですか？→こう」「いますか？→います」「いませんか？→いません」といったオウム返しで答える。子供の場合、本当に本人の意思がきちんと伝わるのでしょうか。不安。心配です。

参加者C

- 財務省の社会保障抑制策の意図は分らない訳ではないが、障がい者の地域生活、移行を進めるにも、グループホームの増設、地域相談支援センターなどお金はかかる。地域生活移行がしっかりできるような予算をつけて頂ければと思う。

参加者D

- 家族の現状再認識が必要。
家族が一層集結をすすめ声を上げる必要があると思いました。

施設保護者会活動状況



千鳥福祉会家族会

～利用者の幸せを目指して～

千鳥福祉会家族会会長 角田 祐吉

〔社会福祉法人 千鳥福祉会の概要〕（主たる所在地） 松江市東持田町

〔理 念〕 千鳥福祉会はあなただけの生き方を支援し続けます

〔事業所〕 1991年（平成3年4月）知的障がい者更生施設「持田寮」開設

現在、次の事業所が開設されている。

☆障がい者支援施設 持田寮

☆多機能型事業所 L.C.C.ういんぐ

☆地域活動支援センター L.C.C.ういんぐ

☆多機能型事業所 ワークセンターフレンド

☆障がい者（児）居宅介護等事業所 千鳥福祉会ケアセンター大空

☆障がい者共同生活援助事業所

☆放課後等デイサービス事業所 ぱすてる・ぱすてるびいす

☆相談支援事業所 ひまわり

〔千鳥福祉会家族会の経緯〕

1991年（平成3年6月）「持田寮保護者会」設立

2014年（平成26年6月）法人の事業所多角化に伴い「千鳥福祉会家族会」と改称

〔家族会関連行事と主な活動〕

☆5月末：運動会～各施設利用者、職員、家族、地域子供会、外部ボランティア参加

法人事業説明会～各事業所方針・事業内容等の説明、質疑

家族会総会～前年度事業報告・決算報告、新年度事業計画・予算案審議等

☆7月（海の日前日(日)）：千鳥福祉会サマーフェスタ（夏祭り）

“つながろう”をスローガンに第15回の節目を迎えました。

事業所を取りまく地域、関係先との“つながり”向上を目指して夏祭りを開催。

千鳥福祉会後援会、地域の平成ニュータウン子供会にも共催頂き、持田地区自治会連合会・同社会福祉協議会の後援も頂いています。

毎年約2千人をお迎えする地域の祭りとして定着して来ました。

地域の皆様のご理解、ご協力。そして、企業及び個人で構成されている後援会の皆様には“福祉の心”にご理解頂き、物心両面で大きな支援を頂いています。

その他、大勢のボランティアの皆様にも支えられています。

家族会は、微力ですがささやかな協力をしています。

☆12月下旬：クリスマス会～法人主催で開催、各施設利用者と共に家族も参加します。

※その他役職員と家族の親睦行事、夏祭り前に敷地内草取り、草刈り等もしています。

〔家族会の課題〕

福祉予算増大の抑制が指摘される時世、障がい者福祉の向上は、“何もせず天から降って来ません”。今こそ、全施連、県連合会の旗のもと家族の結集を進める必要があると思います。